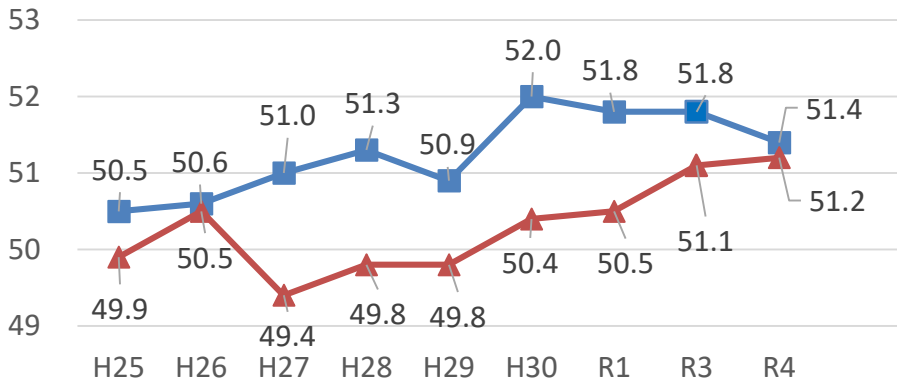


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化

■ 知識 ▲ 活用



○知識、活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.0	73.5	67.2
情報の扱い方に関する事項	48.8	47.6	45.0
我が国の言語文化に関する事項	92.6	89.2	85.0
話すこと・聞くこと	64.1	62.4	60.0
書くこと	70.9	62.8	58.8
読むこと	61.9	61.1	56.7

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。
○「書くこと」においては、全国正答率を8.1Pと大きく上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	72.8	70.5	65.0
思考・判断・表現	65.0	62.0	58.4
主体的に学習に取り組む態度	57.4	51.9	51.0

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	68.5	67.4	62.3
短答	78.0	75.4	69.4
記述	59.9	53.9	52.5

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問1(3) 県正答率35.2% 無解答率16.5%

話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有

◇話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかをみる。

▲話題や展開を捉えながら話し合うために必要となる「出された発言の内容を整理しながら考えをまとめる」ことに課題がある。

◆ 指導のポイント

★「A 話すこと・聞くこと」の指導に当たっては、録音や録画のための機器などを積極的に活用することで指導の効果を高めるようにする。

○実際に話し合い活動を行う際は、身に付けさせたい力を生徒に意識させることが重要である。

<身に付けさせたい力>

- ・話し合いの目的や話題を意識し、展開に沿って話したり聞いたりする力
- ・それぞれの意見の共通点や相違点に着目するとともに、それらを整理する力
- ・結論を出す際に、複数の意見を結び付けて考えをまとめる力

★ 指導の具体例

※第2学年で以下のような授業を実施し、確実な定着を図る

単元名「お互いの考えを尊重しながら話し合おう」

<学習活動>立場を決めて討論をする

①討論のテーマを決め、情報を集める。

- ・グループで地域や社会で話題になっていることの中から、討論したいテーマを決める
- ・テーマに関する情報を広く集めて整理する

②立場を決めて、考えをまとめる。

- ・集めた情報を活用し、意見と根拠をまとめる
- ・異なる立場の人の考えとそれに対する答えを考える

③立場を明確にして討論をする。

④討論を振り返る。

- ・討論を通して自分の考えがどのように広がったり深まったりしたか

※例えば①に、第1学年で身に付けるべき力を活用する場面を位置付けることが考えられる。

※ 国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている。

そのため、指導に当たっては、第2学年の指導事項「A 話すこと・聞くこと」の「オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること」を身に付けさせる過程において、第1学年の指導事項についての活用場面を設け、資質・能力を定着させることが考えられる。